

第19回 栃木こころの会議

原子力災害の中を生きる

～こころとからだ・子育てへの不安を抱えながら～

日時 2012年2月5日(日)14時～16時

場所 大田原市総合文化会館

栃木県臨床心理士会では、第19回「栃木こころの会議」を行うことになりましたので、ご案内申し上げます。

未曾有の震災被害から1年を迎えようとしています。地域的には落ち着きを取り戻し、新たな生活を歩み始めている人々もいる一方で、いまだ多数の方々が、慣れ親しんだ土地を離れ、避難を強いられています。特に、福島県での原発事故は未だ消息しておらず、原子力による災害はいま、そして長くこれからも続いていくことになると思われます。

県内においても多くの方々が避難した生活をしており、隣県での原発事故はさまざまな面において、大きな影響を及ぼしています。

そこで、今回のこころの会議では、大震災後のこれまでをふり返るとともに、原子力災害の中、こころとからだ、そして子育てへの不安を抱えながら、今後どう生き抜いていくのかをともに考えていける場にしていきたいと思えます。

内容

シンポジウム

テーマ「原子力災害の中を生きる～こころとからだ・子育てへの不安を抱えながら～」

==シンポジスト==

菊地 信太郎（小児科医師）

菊池記念こども保健医学研究所；医療法人仁寿会菊池医院副院長 「郡山市震災後子どものこころのケアプロジェクト」マネージャー。

郡山市に在住の小児科医。子どもたちの現状を調査しながら、ケアのためのプロジェクトを展開している。

小林 真喜子（臨床心理士）

郡山市に在住。2児の母親。被災以後は郡山、栃木両県において勤務。自主避難を選択し、栃木との二重生活となっている。

山田 則子（保健師）

那須町保健センター保健師。住民の健康や子育てへの不安について、保健師として支援にあたっている。

==コーディネーター ==

辻 恵介（臨床心理士・精神科医師）

武蔵野大学人間科学部 教授

参加費：無料



【後援】(申請予定)

大田原市、大田原市教育委員会、那須塩原市教育委員会、那須町教育委員会

日程

13:15 受付開始

14:00 会長挨拶

14:10 シンポジウム

「原子力災害の中を生きる～こころとからだ・子育てへの不安を抱えながら～」

・発表

・ディスカッション

16:00 終了

【申込方法】

1月31日（火）までに葉書（各自ご用意ください）または e-mail（件名を「19回栃木こころの会議申込み」として）にて氏名、所属を明記して事務局まで申し込み下さい。

定員（400名）に空きがある場合は当日も受け付けます。

* 申込先：〒321-3295 宇都宮市竹下町 908 作新学院大学 伊達研究室内 栃木県臨床心理士会
e-mail kokoronok19@tsccp.info

連絡先：栃木県臨床心理士会事務局

〒321-3295 宇都宮市竹下町 908 作新学院大学 伊達研究室内

e-mail: jimukyoku@tsccp.info

事務局は非常駐ですので e-mail でお問い合わせください。

アクセス方法

[大田原市総合文化会館](#) 〒324-0041 栃木県大田原市本町1丁目4・1

